

事 務 連 絡

平成28年3月15日

公共交通機関等における

ベビーカー利用に関する協議会構成員 各位

国土交通省総合政策局安心生活政策課

ベビーカー協議会における今後の取組みについて（協力依頼）

拝啓

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は国土交通行政にご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、公共交通機関等におけるベビーカー利用に関する取組みにつきましては、協議会取りまとめ（平成26年3月）などを踏まえて、構成員の皆様におかれましても取組みを進めていただいていることに感謝申し上げます。

このベビーカーに関する政府の動きとして、昨年3月に閣議決定された「少子化社会対策大綱」におきましても、ベビーカーマークの普及・啓発が盛り込まれ、2020年までの認知度の目標値を50%とすることが定められており、協議会としてもさらなる普及・啓発が必要であると考えております。

また、マークの認知度については、単にマークの認知度向上だけでなく、マークの意味についても正しく理解していただくことが必要と考えられます。

つきましては、ベビーカー使用者のマナー向上と周囲の方への理解・協力を得るための継続的な取組みの一環として、本年も5月を普及・啓発の強化キャンペーン月間として取組ませていただくべく、関係事業者等に対しキャンペーン期間中を中心にそれ以降においても、別添取組みへのご協力を要請いただきますよう、よろしく願い申し上げます。

敬具

【担当】

国土交通省総合政策局安心生活政策課

小川、駒田、田中

電話：03-5253-8306

＜今後の取組み＞

① 国

- ・ 5月をキャンペーン月間（プレス発表等）
- ・ ポスター・チラシの作成、掲示、関係箇所に配布
- ・ 関係箇所にポスター・チラシ（電子媒体）の配布
- ・ キャンペーン実施後のフォローアップ調査

② 交通事業者等

- ・ 駅や車内などのポスターの掲出やチラシの配布
- ・ ポスター・チラシ（電子媒体）をHP等インターネット上などで掲示
- ・ HPやアナウンスなどによる上記取り組みの周知
- ・ 可能であれば広報誌等への掲載

③ 施設管理者等

- ・ 施設でのポスターの掲示やチラシの配布
- ・ ポスター・チラシ（電子媒体）をHP等インターネット上などで掲示
- ・ HPやアナウンスなどによる上記取り組みの周知
- ・ 可能であれば広報誌等への掲載

④ ベビーカーメーカー

- ・ イベント、フェアなどでポスターの掲示やチラシの配布
- ・ ポスター・チラシ（電子媒体）をHP等インターネット上などで掲示
- ・ HPやアナウンスなどによる上記取り組みの周知
- ・ 可能であれば広報誌等への掲載

⑤ 子育て団体等

- ・ 関係者の理解や協力によるポスターの掲示やチラシの配布
- ・ キャンペーンの実施やイベントの開催等への協力
- ・ HPなどによる上記取り組みの周知
- ・ 可能であれば広報誌等への掲載

「意味知らない」6割以上

電車やバスの車内などにある「ベビーカーマーク」イラストについて、6割以上の人がその意味を知らないことが、内閣府の調査でわかった。マークは2年前に国土交通省が作成したが、認知度の低さが明らかになった。

ベビーカーを巡っては、学者、子育て団体、交通事業者らでつくる国交省の「公共交通機関等におけるベビーカー利用に関する協議会」が2014年3月、「交通機関やエレベーターでは、たまたまに使えるのが原則」とする指針を公表。それに伴ってマ

交通機関の「ベビーカーマーク」

クも作成された。

マークがある場所は、ベビーカーをたたまずに利用できることを、より明確に示す意味がある。例えば、JR東日本では、首都圏の通勤電車内の座席を設けていないスペースに

掲示している。調査は昨年12月、個別面接方式で行い、約1700人から

回答を得た。「マークを見たことはなく、内容も知らない」と答えた人は46%、「見たこととはあるが、内容は知らな



ら。調査では、ベビーカー利用者への印象も質問した。通行人へ接触しないようにするなど利用者が気遣いをしてい

った」は18%で、6割以上が意味を知らなかった。「見たことがあり、内容も知っていた」は25%だった。

ただ、ベビーカーをたたまずに使えんとする指針については「賛成」が85%で、「反対」の11%を大きく上回った。同省安心生活政策課は「指針の公表当時は反発も強かったが、交通機関などでのベビーカー利用への理解は定着しつつある。マークの認知度向上がこれからの課題」と話す。

かという問いに、「そう思う」と答えたのは70%、「思わない」は19%だった。

ベビーカーを利用しやすい環境作り(複数回答)についての質問では、55%が「公共施設や交通機関でのベビーカー優先スペースなどの設置」

を挙げた。一方、「エスカレーターでの使用や駆け込み乗車など、危険行為に対する規制」と答えた人も37%おり、利用者の意識を問題視する声も目立った。同課では「利用者のマナー向上も今後の課題だ」としている。